

2019 年度外国語学部 FD 活動方針・活動計画

(英米学科、スペイン・ラテンアメリカ学科、フランス学科、ドイツ学科、アジア学科)

外国語学部では、2019 年度においても、FD 研修会および学部自己点検・評価委員会懇談会を軸にして、FD 活動を進める。

2018 年度の FD 研修では、ノースジョージア大学講師の西尾知恵氏を迎えてテレコラボレーションに関する研修会を行い、本学が今後展開していくことになる COIL についての理解を深める機会を持った。2019 年度は、2017 年度の FD 研修からの継続を図るアクティブ・ラーニング、あるいは外国語教育の現状と課題といった中からテーマを絞り込んで、外部講師を招聘して研鑽を深めることとする。

学部自己点検・評価委員会懇談会では、以下に示す各学科の活動方針・活動計画の実施状況を中心にして、各学科間での意見交換を行う。

2019 年度の各学科の FD 活動方針・活動計画は、以下の通りである。

英米学科

- 1) 学科が管理する LL 施設について、2020 年度に予定されている設備更新、ならびに施設の有効利用および今後の活用方法について検討する小委員会の活動を継続し、それぞれの方針を決定する。
- 2) 学科内ミニ FD の実施も含めて、学科内 FD 活動をさらに充実させる。
- 3) 学科内に専門の小委員会を組織し、学科カリキュラムと有機的に結び付けた視点から長期の派遣留学生数の維持および更なる増加を図る方策の検討を行う。
- 4) 過年度と同様、学科内に専門の小委員会を組織し、学科必修科目の内容および評価の標準化の努力を継続する。

スペイン・ラテンアメリカ学科、

- 1) 2018 年度は、新たに 2 名の教員を学科に迎えたが、初年度から、積極的に学科運営に関わり、大きな戦力となっている。日常的な交流を通じ、彼らの新たな視点からの提言とこれまでの学科教員の経験を有機的に結びつけ、学科内での研究・教育に関する意見交換をさらに活性化させるよう務める。
- 2) これまで同様、学外の優れた研究者を招いて講演会を開催し、学科教員の研究水準向上につなげ、学外研究者・学科教員がともに刺激を受けることができるような機会を持つ。
- 3) 学科教員のうち 2 名が新たにラテンアメリカ研究センター員として加わるようになったことを踏まえ、ラテンアメリカ研究センターの活動にさらに積極的に関与し、学科全体の国際化・学際性の強化を図る。
- 4) 大学の世界展開力強化事業プログラム (LAP) や本学のラテンアメリカ研究センターと先方のイベロアメリカ研究所・ヨーロッパ研究所との交流を通じた上智大学との連携、

教員の相互訪問による輔仁大学（台湾）との交流を継続し、国内外のカトリック大学との教育・研究面での協力関係をさらに広げる。

- 5) 学科の教育指導冊子 *Un, dos, tres al español* の改訂について、想定以上に検討を要する箇所が多く、予定通りに進行していないので、作業の進め方も検討しながら、改訂作業を行う。
- 6) 各教員の得意とする分野の知識・技能を活用し、学科内での業務分担を円滑化するとともに、教員間での相互支援を促進する。
- 7) 言語科目コーディネーターを中心に、言語科目運営上の微調整を行うと同時に、非常勤講師の先生方に対し、その説明を継続的に行う。また、クォーター制導入後の授業運営等に関する意見聴取を実施する。

フランス学科

- 1) 2018年度に引き続き、学科内において定期的にミーティングを開催し、授業内容の検討ならびに科目登録・授業運営方法の見直しを行う。また、フランス語科目担当の非常勤教員を集めて教科書会議を開催し、授業方法について事前の打ち合わせを行う。
- 2) 履修ガイダンスや学び方講座の開催、オフィスアワーの設置、学科ウェブサイトの充実などを通じて学生の履修指導、留学支援、学習支援を継続する。
- 3) 学生の海外留学を促進するとともに、フランス語劇、各種フランス語スピーチコンテストなどフランス語を活かした各種課外活動への参加を奨励する。
- 4) フランス語教育の効果を測定し、その結果をさらにその後の教育に活かすため、実用フランス語技能検定やTCFなどの外部語学試験の集団受験を促す。
- 5) 学科のFacebookの更新、オープンキャンパスや高等学校での模擬授業により、学科の広報活動を行いつつ、各専攻の特長をさらにアピールするよう努める。
- 6) フランス語圏に関する専門的知識を有する専門家を招いて教員の研究支援に資する講演会を開催する。

ドイツ学科

- 1) 今年度も新カリキュラムと旧カリキュラムが並行することから、授業運営等が円滑に進むよう十分に留意する。
- 2) 学科専任教員・外国語教育センター所属L.I.教員・非常勤講師との間で学生の学習状況についてクォーター毎に議論し、教育環境を充実する。
- 3) ここ数年、国内外より多くの講師を招聘してきたが、今年は学生への学習効果などをより見極めながら、計画的に講演会を開催する。
- 4) 今年度は招聘留学生や交換留学生が多数来日する予定である。ドイツ人学生と本学学生との間の交流を促進し、学生のドイツ語によるコミュニケーション能力の向上を図る。
- 5) 学科伝統のドイツ語劇・弁論大会の開催を継続するとともに、将来的にも継続可能な体

制の構築を検討する。

- 6) 今年度前半にリニューアルされる学科 HP を定期的に更新するとともに、学外への情報発信の重要なプラットフォームと位置づけ有効活用を図る。

アジア学科

- 1) 外国語科目と演習科目に重点をおいて、授業の振り返りを継続する。
- 2) 「海外フィールドワーク A/B」の 2018 年度実施状況と実施後の評価および点検を踏まえて、2019 年度の実施に向けた準備を丁寧におこなう。
- 3) 効果的な学生指導ができるよう、引き続き学科教員間および学科教員と非常勤講師との緊密な連携を図る。
- 4) 学科作成ホームページの一層の充実を図り、受験生や在学生に本学科の特徴を十分に伝えられるよう工夫する。
- 5) インドネシア語学習の意欲を高め、能力を向上させる一助としてインドネシア語スピーチコンテストを引き続き実施する。
- 6) 中国・台湾およびインドネシアへの国費留学希望者に対する支援を継続する。
- 7) FA. com など在学生の課外活動への支援を継続するとともに、これら在学生の協力を得て初年次生の大学生活を支える体制を堅持する。
- 8) キャリア教育については、1 年次生に加えて、2 年次生に対しても秋学期に講習の場を設けて、キャリア意識の形成および向上を図る。

以上